主題：―私たちを解放して下さる主イエス―　　2021/4/28
目標：―主イエス・キリストを信じて従うなら、主が味方して祝福して下さることを信じるー　　キリスト伝
Ⅰガリラヤ伝道②

# 「解放者である主イエス」

マルコ1:21～34 p66

主イエスは私たちを罪から、悪魔(サタン)から、この世から解放して下さる解放者である。

故郷ナザレの会堂で、主イエスに手渡されたイザヤ書61章に、「捕らわれ人の解放」「虐げられている人を自由の身にする」とあったが、主イエスによりこの事が次々と実現していく。

まず本拠地、カペナウムでの次の安息日の礼拝の後、最初に、主イエスの御許に来たのは、悪霊に憑かれた人であった。精神病と悪霊に憑かれる事とはちがう。例えば、初代イスラエルのサウル王のように、神の前に罪を犯しながら悔い改めず、それを温めている人に悪霊は入り、住み込むのである。悪魔(サタン)と悪魔に従う悪霊は人間を誘惑し、捕らえ、入り込み、肉体的・精神的に虐げ、滅ぼそうと狙っているのである。

しかし救い主イエス様は、十字架と復活により私たちを永遠の滅びから、死から解放して下さった。悪魔(サタン)の支配から、神の支配に移して下さったのである。それは、主イエスの公生涯の始め、40日40夜の断食の後、サタンに勝利されたところからすでに始まっていた。

解放者である主イエスは、私たちを自由にし、始めに神に愛されて創られた状態に戻し、罪により神の御前に死んでいた者を、生きる者と変えて下さる方である。

確かに、霊的存在の悪霊らは、人間より主イエスのことを良く知っている。しかし知っていても、信じて従おうとはしない。知る事と、信じて従う事とは違う。信じて従う者には、救い主イエス様が心の内に入って下さり、共にいて、サタンにも悪霊にも、そして罪にも常に勝利させて下さる。そしてさらに、神に喜ばれ、用いられる者にしてくださるのである。

## [聖書の学び]

### Ⅰ、捕らわれている人の解放　（安息日の午前中）　（マルコ1:21～28）

1、安息日の午前中、カペナウムの会堂に入られた主イエスは、人々に教えられました。人々にどのように教えられたのでしょうか。（マルコ1:21～22）

①律法学者の教え方--- 代々伝わっている律法の決まりを守るように教えた。

②主イエスの教え方---

2、どうして権威ある者として語ることができたのでしょうか。

例えば、山上の垂訓（マタイ5章）などを考えてみると…

3、会堂で教えられた直後、どのような人が来たのでしょうか。

①主イエスに何と言ったのでしょうか。（v23,24）

②主イエスは何と言われたのでしょうか。（v25）

③その人は、どうなったのでしょうか。（v26）

④人々が主イエスに対して思ったことは、正しいでしょうか。（v27）

**Ⅱ、病気からの解放**　（安息日の午後）　（マルコ1:29～31）

1、安息日の午後、主イエスはどこに行かれたのでしょうか。（v29）

2、シモン(ペテロ)とアンデレの家で家庭集会が始まろうとしていました。
お手伝いに来ていたのでしょうか、急に熱を出して寝ていたのは誰でしょうか。（v30）

3、主イエスはどうされたのでしょうか。（ルカ4:38～39 p117）

4、シモン(ペテロ)の姑は元気になると、どうしましたか。（ルカ4:39）

ちょっと、脱線！--- この時、ペテロはすでに結婚していた訳で、彼は愛妻家で、後日独身のパウロが、ちょっとうらやましいとさえ思う程どこに行くにも連れて行ったようです。もしかしたら、最後のローマにまでも一緒に行ったかも？

**Ⅲ、虐げられている人々の解放**　（安息日の夕方）　（マルコ1:32～34）

1、夕方、日が沈むと安息日が終わり、自由に好きなことができるようになります。
人々はどのような人を主イエスのところに連れて来たのでしょうか。
（マルコ1:32～34）

2、モーセに十戒を与え、安息日を制定された神である主イエスは、たとえ安息日であっても、悪霊に憑かれた人や病人を癒されました。その心はどのような心なのでしょうか。
（マルコ1:32～34）

**＊　ディスカッション**　（心を開いて話し合ってみましょう）

**Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。**